

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(3月12日～3月18日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。3月12日から3月18日までに6193件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは、2件ありました。いずれも野生鳥獣です。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめられています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(3月12日～3月18日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	43	0	—	栃木県	農産物	59	0	—
	畜産物	353	0	—		畜産物	900	0	—
	水産物	145	0	—		水産物	20	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	9	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	18	1	イノシシ
	飲料水、その他	27	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮城県	農産物	50	0	—	群馬県	農産物	5	0	—
	畜産物	143	0	—		畜産物	413	0	—
	水産物	44	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	5	0	—		牛乳乳児用食品	1	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	1	0	—		飲料水、その他	0	0	—
茨城県	農産物	27	0	—	千葉県	農産物	30	0	—
	畜産物	472	0	—		畜産物	97	0	—
	水産物	14	0	—		水産物	22	0	—
	牛乳乳児用食品	2	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	2	1	イノシシ		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	4	0	—		飲料水、その他	0	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%

2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%
2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年12月24日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 1月21日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 1月28日	99.4%	0.6%	0.0%
2018年 2月 4日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 2月12日	97.9%	2.1%	0.0%
2018年 2月18日	100%	0.0%	0.0%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2017年3月平均	97.0%	3.0%	0.0%

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで143週連続(約3年)となります。福島県の138検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類はいわき市のカサゴ(13ベクレル/キログラム)、コモンカスベ(7.1ベクレル/キログラム)でした。

(2)検査について基準を超えたものについて

- ①栃木県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
 - ア.栃木県茂木町:イノシシ(150ベクレル/キログラム)
 栃木県で捕獲された野生鳥獣については、すでに出荷制限措置が取られているため、市中には出回っていません。
- ②茨城県で捕獲された野生鳥獣について、基準を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。
 - ア.茨城県笠間市:イノシシ(160ベクレル/キログラム)
 茨城県で捕獲されたイノシシについては、すでに出荷制限措置が取られているため、市中には出回っていません。

(3)京都の空間線量(3月12日～3月18日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.037～0.043マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.044～0.051マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.11マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.13～0.14マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1くらいになってきました。しかし0.1マイクロシーベルト/1時間を下回るところまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038～0.046マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1) 野生キノコの放射性物質濃度、減少傾向 福島で報告会(朝日新聞DIGITALより)

福島大学環境放射能研究所は6日、「原発事故7年後の福島の復興と科学的課題 これまでとこれから」をテーマに、原発事故で飛散した放射性物質を、植物や動物などがどのように取り込んでいるか、についての研究の報告会を開いた。

同研究所と連携して研究している長崎大の高村昇教授は、川内村での野生キノコや山菜について述べた。

村内で調査のため採取した野生キノコや山菜の放射性物質濃度は減少傾向にあるとしたうえで、種類によって放射性物質濃度に差が大きいと指摘。

2016年の調査で、コウタケは1キログラムあたり1千ベクレル程度で他のキノコより突出して濃度が大きいですが、それ以外の野生キノコでは、食品の出荷基準である1キログラムあたり100ベクレルを半数程度は下回り、山菜でも、ゼンマイやタラの芽で高く、フキやウドは低いという。

高村教授は「基準値を超えている事実はあるので、引き続き経緯を見守っていく必要がある」と話した。

以上